



# 関西珠洲会だより

関西珠洲会

発行責任者  
会長 宮崎 和夫

## 花火 いのちの輝き in 珠洲

日時：8月10日（土）旧暦の七夕 13時～17時

場所：珠洲市宝立町 見附島の海岸

主催：花火 いのちの輝き実行委員会

後援：関西珠洲会 東京珠洲会 北野天満宮 北國新聞

能登半島地震の犠牲者を追悼しようと、有志の呼び掛けで旧暦の七夕となる8月10日に、「花火 いのちの輝き」が珠洲市宝立町の見付海岸で行われ、慰霊の願いを込めた花火が、珠洲市で亡くなられた方と同じ数の111発打ち上げられました。

地元の方500名程が来られ満天に輝く天の川をバックに打上げられる花火をいろいろな思いを胸にご覧になっておられました。

この催しは、東日本大震災や熊本地震の被災地で追悼行事を重ねてきた芸術家の大志さんの呼び掛けで、珠洲市内の有志が実行委員会を結成して企画され、関西珠洲会と東京珠洲会が協力し、北野天満宮の橋重十九宮司（宝立町鶴飼出身）ら市外を中心とした約130の個人や団体、企業が協賛しました。後援して頂いた北國新聞でも記事が大きく掲載されました。



北國・富山新聞

地震で大きく崩れた見附島を「あの世とこの世を橋渡しする船」に見立て、島に向けて花火が次々と打ち上げられました。

花火玉には、故人に宛てて遺族や親類らから募った感謝のメッセージが描かれており、「今までありがとう。大好きだよ」、「みんな元気です」、「珠洲の街が元どおりになりますように」などのメッセージを織り込んだ歌が奏上されました。



メッセージが描かれた花火玉

会場の見附海岸には、遺族の方や珠洲市に縁のある方が描かれた夢ハンカチ500枚程が、風に吹かれ、なびいていました。メッセージは天国へきつと届いたと思います。

16時からラーメンなどの炊き出し、京都から山科スイーツプロジェクトの皆様も出店頂き、準備中から子供たちは太鼓などで遊んでいました。子供たちの笑顔は最高でした。



見附海岸になびく夢ハンカチ



太鼓などで遊ぶ子供たち



花火の前には、主催者代表の芸術家 大志さんの挨拶に始まり、雅楽演奏、馬縞きりこ太鼓、龍神太鼓、宝立小・中学生による、きりこ太鼓が披露されました。



お盆を前にこのような慰霊の花火ができたことは、珠洲の皆さんの気持ちを和らげ元気づけられたのではないかと思います。

「花火 いのちの輝き実行委員会」には主催者の大志さんをはじめ、珠洲とはこれまで縁がなかった方も多く応援に来てくれました。そのなかで、関西珠洲会は珠洲との橋渡しの重要な役割ができたのではないかと思います。これからも多くの方々に珠洲を応援してくれるきっかけ作りもできればと思いました。



スタッフの皆さん（関西珠洲会から北沢事務局長、押上さんが参加）



今なお神々しい見附島 これからは復興のシンボルに！

